

# でもね

2022年3月号

# せんせい

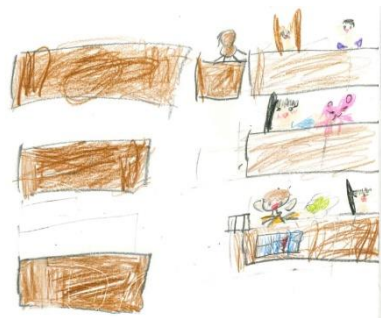
内藤アカデミー  
学童保育教室

## 卒業・入学・進級の季節に 中学受験と高校受験を考える 服部 哲

### 1年生の 絵日記より 「お店屋さん」



<1年>



<1年>

卒業・入学・進級の時期となりました。学童保育教室の生徒の保護者の皆さまは、お子さまが小学校や中学校を卒業される時に、どのような進路を進んだらよいのかお考えになれることがあるかと思います。今回は、中学受験と高校受験について、知っていただきたいことを中心に書かせていただきます。

ひと昔前とくらべて、大学受験は大きく様変わりしました。以前は、大学は国公立、私立を問わないで、難易度順の序列的なものがありました。今は、国公立大学が一つの難関カテゴリーとしてくられ、その分、私立大学の間での序列が強調される傾向にあります。「大学は国公立大学がベストだが、少なくとも関東の有力私立大学に進んでほしい」とお考えの方もおられるかと思います。私学は学費の高いことが難点ですが、有力大学ならそれを補う魅力があると言えます。

希望する大学をめざすために、「高校から私立高校を選択する」、あるいは、「中学受験を

する」ことも、有力な選択肢となります。学費については、国や県の「私立高校授業料実質無償化」の制度や、「各私立中学・高校の特待生」の制度を利用すれば、負担は軽減されます。注意点は、神奈川県から東京都の私立高校に通う場合は、県の助成は受けられないこと、特待生になるためには成績最上位で合格しなければならないことです。なお、「公立中高一貫校」も学費の点では魅力があります。しかし、そのため「受験者がたいへん多い」こと、それに対応するための「差の付く入試問題がたいへん難しい」ことから、受験をあまりお勧めしたくありません。

学費の問題をクリアして入学できれば、私立の中学・高校のさまざまなメリットを受けられます。それを、①私立大学系列の中学・高校、②系列大学のない私立中学・高校に分けて述べてみます。①の学校の魅力は、原則として系列の大学に推薦入学できることでしょう。大学の豊かな経済力によって、中高の校舎も近代的で美しく、大学の充実した体育設備を中高生が利用できることもあります。また、「系列大学より序列上位の大学」の受験を奨励している高校もあります。「他大学を受験しても系列大学への推薦を保持できる高校」や、「上位大学受験のための予備校的な選択授業をしている高校」などもあります。

①の高校で、系列大学に推薦で進む場合にも注意点はあります。希望の学部・学科に進むには、学内テストで上位にならねばなりません。「医学科」や「パイロット養成の学科」がある大学では、それらに進むには最上位が要求されます。また、英語の外部検定試験、



<1年>



<1年>



<1年>



<1年>

たとえば英検 2 級に合格することを、推薦に必要な条件に加えている学校もあります。

①の学校についての最後に、概して「高校」よりも「中学」の方が「入りやすい」ことを付け加えておきます。たとえば、法政二高に学業推薦で入学する場合、中 3 の成績が「ほぼオール 5」である必要があります。法政二中の方は、入試問題の質や難易度も適切で、高校よりは入りやすいです。これは、中学受験をするメリットと言えます。

②の学校の魅力は、充実した「進学指導」や「英語教育」です。学校の選択の際、まず見るところは「大学進学実績」でしょう。それを上げるために、どの学校もたいへんな努力をしています。学校によっては、「〇〇大学英語対策講座」といった予備校的な選択授業を取り入れています。英語教育については、海外への短期留学(長ければ一年の留学)をさせるところも多くあります。今年の「でもねせんせい」7月号で、「英検準 1 級の受検のとき、まわりのほとんどが高校生だった」と書きました。そういった高校生は、英語教育が充実した高校の生徒たちです。

私立中学受験のための勉強について述べます。内藤アカデミーも「中学受験クラス」に力を入れています。「通常クラス」に加えて受験クラスを受講するとなると、宿題の負担も大きくなります。受験クラスで「ついていく」ためには、通常クラスやホームテストの内容はほぼ完全に理解できてほしい、と考えます。受験校を適切に選択したうえで、受験クラスでの勉強を進めれば、合格は見えてきます。アカデミーの中学受験クラスからは、

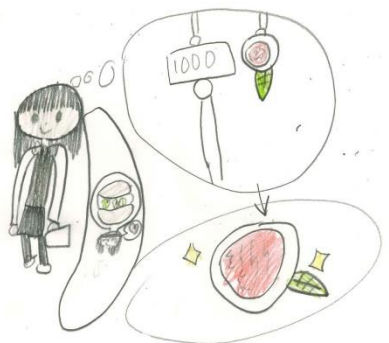
私立中学の特待生も輩出しています。

受験校の選択においては、偏差値による難易度だけでなく、入試問題の質も考えるべきです。「差の付く問題」に、「大人でも無理な超難問」や「くせのある問題」が多い学校については、受験をあまり勧めたくありません。「良い問題」を出す学校として、たとえば、洗足学園という女子校があります。理科の問題は、毎回「物理」「化学」「生物」「地学」の順に 1 問ずつ、整然と並んでいます。それも受験生を教える側に好印象を抱かせます。ある年、「アラビア半島の死海で人が楽に浮く理由」、言い換えると「塩分濃度が高い食塩水では浮力が大きくなる理由」を、丁寧に誘導して答えさせる問題が出ました。解くのに必要な知識は、物理の「重力」「浮力」「密度」についての基本的なもののみで、誘導の流れに乗って考える力さえあれば、解くことができます。地理が好きな小学生が、「死海で人が浮かんで本を読んでいる写真」を見たとしても、浮かぶ理由までは考えないかもしれません。しかし、見た経験がある生徒なら、そのような問題が出されれば、興味深く考えることでしょう。優秀な生徒を選ぶために、非常に良く出来た問題だと感じました。

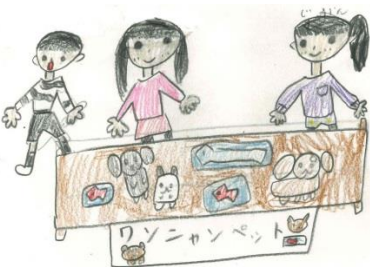
次に、私立高校をめざすための勉強について述べます。中学の 9 科目各 5 点、45 点満点の「内申点」の重要性は、公立高校・私立高校に共通します。私立高校の推薦入試や公立併願入試では、学校ごとに出願に必要な内申点が決まっています。「通知表(内申点)に 1 点(学校によっては 2 点)がある場合は出願できない」と定めている高校もあります。提出物



<1 年>



<1 年>



<1 年>



<1 年>



<1 年>



<1 年>